

【煤竹色(すすたけいろ)】煙に燻されて古色を帯びた竹のような暗い茶褐色。

古い茅葺き屋根があるような民家の天井裏の部材などとして用いられた竹が、長年、囲炉裏の煙で燻されて変色した色のこと。江戸時代には通好みの色として愛好され、ちょっとした色の変化を楽しんで、「銀煤竹」「藤煤竹」「伽羅煤竹」などたくさんの色名が生まれた。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和2(2020)年度「公共ホール邦楽活性化モデル事業」

財団からのお知らせ..... 4

令和2(2020)年度ステージラボ オンラインセッション視聴・参加申し込み受付開始／「第21回地域伝統芸能まつり」中止のお知らせ／「地域創造フェスティバル2021」開催のお知らせ／令和2(2020)年度「リージョナルシアター事業」報告

今月の情報..... 6

地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

長野県上田市 サントミューゼ(上田市交流文化芸術センター)
コロナ禍における市民参加演劇

●公共ホール邦楽活性化モデル事業

昨年度から“市町村対象”の邦楽活性化事業がスタート

令和2(2020)年度 公共ホール邦楽活 性化モデル事業



学習指導要領の改定により、小中学校で和楽器や日本の音楽を学ぶようになったことを踏まえ、地域創造では平成21(2009)年度から「邦楽地域活性化事業」(都道府県・政令市対象)をスタートしました。目的は、「邦楽への理解の促進」「邦楽アウトリーチと演奏会の普及」「邦楽演奏家によるアウトリーチプログラム開発」です。

この事業では、都道府県等が主導し、地域創造が派遣した邦楽演奏家とコーディネーターが現地に滞在してアウトリーチプログラムを開発。公共ホールで演奏会を行うとともに、市町村と連携してアウトリーチを実施するというものです。平成30年度までに延べ9つの県と政令市、27市区町で事業が行われ、27組の邦楽演奏家がアウトリーチプログラムの開発に取り組みました。

その実績を踏まえ、地域からの要望を受けて昨年度から試験的に取り組んでいるのが、市町村が主体的に事業を行う「公共ホール邦楽活性化モデル事業(市町村対象)」です。今回のレターでは、11月20日～22日に高松市文化芸術財団(サンポートホール高松)と高松市が主催したモデル事業の模様をご紹介します。

●邦楽ルネッサンスと題したコンサートが大盛況

モデル事業では、地域創造が邦楽演奏家(アウトリーチプログラム開発に参加した演奏家)とコーディネーターを派遣し、現地下見1回と本番(3日間でアウトリーチなどの地域交流プログラム4回、ホールでの演奏会もしくは公募型ワークショップのいずれかを1回)を実施します。

地域創造の児玉真プロデューサーは、「邦楽では演奏家は楽器体験的なものが求められることが多いですが、アウトリーチでそれをやると時間の半分以上を費やしてしまいます。邦楽を音楽として聴く人を増やしたいと思うので、市町村対象のプログラムでもアウトリーチは鑑賞的なものにシフトし、ホールで演奏会もしくはワークショップを企画できる形にしました。また、今回は都道府県・政令市対象でアウトリーチのノウハウを身につけた演奏家が、地域で邦楽の普及を行う道筋もつくりたいと考えました。そのためのプロフィールブックを制作し、邦楽演奏家の情報を一覧できるようにしました」と話します。

通常は、5月に全体研修会を実施しますが、

写真

左上: 高松市立牟礼南小学校でのアウトリーチ(2020年11月20日)

右上: 玉藻公園披雲閣大書院で行われた演奏会(11月21日)

左下: 高松市美術館講堂で行われた演奏会(11月21日)

右下: 最終日にサンポートホール高松で行われたコンサート「邦楽ルネッサンス～ひらけ和の響き～」(11月22日)

●「公共ホール邦楽活性化事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4076

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により7月に延期。事業の進行にも遅れが出るなど、イレギュラーな対応となりました。演奏家の現地下見も行わず、Zoomなどのリモート会議を重ねて実現に漕ぎ着けました。

サンポートホール高松の担当・堀有紀子さんは、「中止という選択肢もありましたが、貸館事業も再開していたので、実現できる形を探してコロナ禍で実施するモデルにしたいと思いました。これまで当館では邦楽の演奏会を主催したことがなく、自分たちにはないノウハウを得られるのではないかと考えました。当館に來たことのないお客さんに来てもらいたい、『鬼滅の刃』などの和物ブームで若い人にも興味をもってもらえるのではないかなど、いろいろな狙いがありました。そこで演奏会を『邦楽ルネッサンス～ひらけ和の響き～』というタイトルにし、地域交流プログラムもターゲットを分け、小学校2校へのアウトリーチに加え、高松で実施する意義を踏まえて高松市美術館（親子と一般対象）と玉藻公園にある披雲閣大書院（65歳以上対象）で行いました」と話していました。

小学校へのアウトリーチでは、通常は音楽室を会場にして演奏家と交流しながら行いますが、コロナ禍のため2校とも体育館で実施。牟礼南小学校では、演奏家と子どもたちとの距離を4メートル、子ども同士も十分な距離を離し、子どもたちは演奏家を遠巻きにして半円形に置かれた椅子に着席し、全員マスク着用で鑑賞しました。

高松のモデル事業に参加したのは、ポルトガルのカーザ・ダ・ムジカによる音楽ワークショップ手法を身につけ、東京文化会館ワークショップ・リーダーも務める吉澤延隆さん（箏）と、尺八を広めるためのYouTubeチャンネルを主宰している川村葵山さん（尺八）という邦楽の普及に尽力するゴールドコンビです。

冒頭、吉澤さんが「僕たちは箏と尺八の魅力を伝えに來ました」と挨拶。初めは『春の海』の作曲者や楽器の説明だったものが、布や金

属のボールを使い、弦をシゴき、甲を叩きながらの『インテルメッツィⅡ』（望月京）で子どもたちの集中力はピークに。尺八でも古典本曲の『鶴の巢籠』から沢井比河流作曲による現代曲『土声』まで、邦楽器による音楽の魅力を存分に伝えていました。また、邦楽をみんなで楽しむ試みとして、手拍子、足踏みで演奏に参加するワークも行われました。

「アウトリーチの感触はとても良かったのですが、ホールでの鑑賞に大きく繋げることではできませんでした。（触れることを極力少なくしたので）チラシも配布できなかったし、学校で太鼓を学んでいる子どもたちとの交流もできなかった。保護者も子どもたちをホールに連れて行くことを躊躇していました。いろいろな可能性があったのに広げることができませんでした」と堀さんは反省点と今後の課題を話していました。

このほか、国指定重要文化財の披雲閣では、大書院で日本庭園をバックに演奏が行われ、木造建築と邦楽器が響き合う至福の時となりました。また、検討を重ねた結果、客席を100%稼働させたホールでの演奏会は、古典から現代曲までをカバーしたプログラムで、親しみやすいトークを交えたステージを200人以上の聴衆が堪能し、大盛況となりました。

●令和2(2020)年度公共ホール邦楽活性化モデル事業(開催地/日程/演奏家)
※1月中旬現在

- 熊本市
2020年11月12日～14日
佐藤亜美(箏・二十五絃箏)
佐藤将山(尺八)
- 香川県高松市
11月20日～22日
吉澤延隆(箏・十七絃箏・二十絃箏)
川村葵山(尺八)
- 埼玉県秩父市
2021年2月9日～11日
木場大輔(胡弓)
伊藤麻衣子(箏・二十五絃箏)
島村聖香(邦楽打楽器)

演奏家コメント

●吉澤延隆(箏)

緊急事態宣言が解除された6月の東京文化会館のワークショップ・コンサートから活動を再開した。8月には都内の学校でマスクの着用、アルコール消毒などの感染対策を行った上で音楽室でのアウトリーチを行った。その時には電子黒板に演奏する手元を写すなどICTも活用した。今回のように体育館で少人数を対象にしたのは初めて。邦楽でも自発的に身体を動かしていいということをプレゼンしたくて、『春の海』にボディアパーカッションを取り入れた。音楽室と違って、子どもたちの様子がひとりひとり目視しやすく、離れたら離れたなりの良さがあると思った。

●川村葵山(尺八)

体育館でも演奏の仕方は全く変わらない。今回の事業では、小学校、文化財、ホールなど会場がいろいろ変わって大変だったが、邦楽をより知っていただくためにそれを楽しんでもやるのがこの事業の面白さだと思う。時代が変わり、これが「邦楽」だという提示の仕方も変わってきている。邦楽を特別なものとしてではなく、日常的なものとして体現するのがアウトリーチだと思う。現代音楽を中心に演奏する「The Shakuhachi 5」を立ち上げて2020年春に演奏会を行う予定だったが新型コロナウイルスの影響で延期になった。資金集めのためのクラウドファンディングも行った。こういう新しい試みにも挑戦している。

財団からのお知らせ

●ステージラボ オンラインセッション
[日程] 2021年2月24日(水)～26日(金)
[会場] オンライン
※双方向オンラインツールを使用予定
[実施予定プログラム]
2月24日(水) シンポジウム
2月25日(木) ワークショッププログラム1
日目(※)
2月26日(金) ワークショッププログラム2
日目(※)、オンライン交流会
※参加者募集は終了しました。
◎ステージラボオンラインセッション視
聴・参加申し込み方法
当財団ホームページにある「申込フォー
ム」からお申し込みください。また、申込
書による受付を希望の場合は、下記メー
ルアドレスにお問い合わせください。
●URL
[https://www.jafra.or.jp/event-request/
online_lab2020/](https://www.jafra.or.jp/event-request/online_lab2020/)
●メールアドレス
kensyu@jafra.or.jp
◎ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

●「アーカイブ箱」企画～地域との繋がりにオンラインを活用した取り組み について情報をお寄せください～

ステージラボオンラインセッションでは、参加者の都合に合わせて研修後も活用
いただけるウェブページ「アーカイブ箱」を開設します。

実施プログラムの終了後、アーカイブ映像を作成し公開するほか、公立文化施設
と地域の繋がりにどのようにオンラインを活用したのか、今後の事業実施の参考と
なる情報を集約したアーカイブページを設置します。皆さまからお寄せいただく情報
と併せて、検討プロセス、実施した成果や課題などをご紹介いただく事業担当者イ
ンタビュー動画等を公開予定です。皆様からの情報提供をお待ちしております。

◎対象となる情報

全国の公立文化施設や地方公共団体等で行われた、地域との繋がりにオンライン
を活用した文化・芸術に関する取り組み

◎情報提供方法

当財団ホームページにある「情報提供フォーム」より、情報をお寄せくだ
さい。

<https://www.jafra.or.jp/event-request/archive2020/>



●令和2(2020)年度ステージラボ オンラインセッション視聴・参加申し込み受 付開始

地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇
場等および地方公共団体の職員の方々を対象
として、オンラインで参加いただける研修事業
「ステージラボ オンラインセッション」を実施し
ます。

本研修では、『「地域」と“育む”これからの
劇場運営』をテーマに、これからの劇場運営の
あり方や文化施設職員に求められる役割を考
える場として、集まった参加者同士の双方向
の交流を重視したプログラムと、ご都合に合
わせて受講いただけるアーカイブ配信を予定
しています。

今回は、ライブ配信で行うシンポジウムの
視聴およびオンライン交流会への参加につい
て申し込みを受け付けます。

※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

募集締切: 2021年2月16日(火)

◎シンポジウム『地域に今なぜアートが必要か』 (ライブ配信)

[日程] 2021年2月24日(水)

10:40～12:15(第1部)／14:30～16:30(第2部)

[会場] オンライン

※Zoomビデオウェビナーを使用予定

[定員] 各部80人(先着)

[概要] 地域とアートを繋ぐコーディネーター、
市民と創造活動を行うアーティストの2つの視
点から、「地域に今なぜアートが必要か」をテー
マにこれまでの活動を振り返り、公立文化施
設の持つべき視点、展望を考えます。

【第1部】「地域とともに歩むコーディネーター」

[ファシリテーター] 吉本光宏

[パネリスト] 大月ヒロ子、小川智紀、若林朋
子、津村卓

[概要] 地域の中で生活と文化・芸術を繋ぐ重
要な役割を果たしているコーディネーターは、
地域をどのようにとらえ、どういったビジョンを
描いているのか。文化・芸術のプラットフォーム
として公立文化施設がもつべき視点を考え
ます。

【第2部】「市民と向き合うアーティスト」

[ファシリテーター] 吉野さつき

[パネリスト] 遠田誠、田上豊、田村緑、吉澤
延隆、津村卓

[概要] 地域で活動を行うアーティストは、地
域や市民と向き合うなかで何を考え、創作活
動や表現活動に対してどのような影響を感じ
ているのか。今回はワークショップ事業に焦点
を当て、さまざまなジャンルのアーティストの体
験から、ワークショップの効果や可能性を再考
し、これからの事業のあり方を考えます。

◎オンライン交流会

[日程] 2021年2月26日(金) 20:00～21:30

[会場] オンライン

※Spatial.Chatを使用予定

[定員] 40人程度(先着)

[概要] ワークショッププログラム(※)のコー
ディネーターがホストを務め、オンライン上で交
流会を行います。他の公立文化施設やアーティ
スト等との情報交換やネットワークづくりにぜ
ひご活用ください。

※ワークショッププログラムの参加者募集は終
了しました。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●「第21回地域伝統芸能まつり」中止のお知らせ

2月21日(日)に開催を予定しておりました「第21回地域伝統芸能まつり」の中止を決定いたしました。新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、緊急事態宣言が発出された状況を受け、出演者および観客の皆様の健康と安全を第一に考え、中止の判断に至りました。

この日のために準備を進めてこられた関係者の皆様、また本イベントを楽しみにしていた皆様には、開催間近でのお知らせとなり大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただくとともに、今後とも「地域伝統芸能まつり」をよろしくお願いいたします。

●「地域創造フェスティバル2021」開催のお知らせ(5月25日、26日)

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、地方公共団体や公共ホールが文化・芸術事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェス

ティバル2021」を東京芸術劇場で開催します。

例年7月末頃に開催していましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を考慮し、次年度は時期を前倒しし、一部内容を変更しての実施となります。出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、4月号でご案内します。皆様のご参加をお待ちしております。

予定しているプログラムは以下のとおりです。

●地域創造フェスティバル2021概要

[日程] 2021年5月25日(火)、26日(水)

[会場] 東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)

●公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)のセミナー

●地域創造事業 ワークショップ体験&レクチャー(邦楽・演劇・ダンス)

※公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)プレゼンテーションは、2021年10月27日(水)にともみ区民センター(東京都豊島区)にて開催予定です。

●令和2(2020)年度「リージョナルシアター事業」報告

演出家を公共ホールに派遣し、アウトリーチやワークショップを実施するリージョナルシアター事業。今年度は北海道大空町、福島県いわき市(いわき芸術文化交流館アリオス)、埼玉県宮代町(宮代町立コミュニティセンター進修館)、大阪府枚方市、福岡県久留米市(久留米シティプラザ)の計5地域で実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、いわき市での実施のみとなりました。

いわき市では、派遣アーティストの田上豊さんとホール担当者が対話を重ねながら、地域のニーズに合った独自のプログラムをつくっていきました。

まず、市内の山間部にある小規模中学校2校では合同でワークショップを実施。学校近くの神社を舞台に、生徒7人が地域の伝承を元にした演劇づくりに挑戦しました。生徒たちからは、「チームで話し合いながら演劇をつくれて楽しかった」「別のチームの作品を見て、さまざまな表現方法がありとても面白いと思った」などの感想が聞かれました。

また、ホールでは適応指導教室の小中学生を

対象にしたワークショップが実施され、子どもたちが舞台スタッフの仕事を体験。アシスタントの俳優の演技に合わせて、実際に音響や照明などの操作を行いました。自分の役割を果たせた達成感、子どもたちにとって大きな自信に繋がったようです。

このようにリージョナルシアター事業は、多様なプログラムによってホールと地域の抱えるさまざまな課題や資源と向き合うことができます。令和3年度は、今年度からの延期地域を含む計8地域で実施予定です。



神社でのワークショップ 撮影:吉田和誠

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ

総務部 山本
Tel. 03-5573-4056

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・宮下
Tel. 03-5573-4124

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2021年4月号情報締切

2月26日(金)

●2021年4月号掲載対象情報

2021年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●北海道北見市

北見芸術文化ホール

〒090-0811 北見市泉町1-3-22

Tel. 0157-31-0909 中野雅代

<http://kitami-hall.sakura.ne.jp/kitart21/>

オホーツクの風土が生んだアーティストシリーズ22 山瀬哲郎 Percussion Concert

オホーツク地方にゆかりのあるアーティストと共に企画するコンサートシリーズ。22回目となる今回は、北見市出身のパーカッショニスト山瀬哲郎を迎える。「パーカッションが主役」をテーマに、自身のオリジナル曲やインプロなど、パーカッションの多様な音色や表現力を存分に味わうことができる曲目をセレクトし、ピアノとドラムを含むさまざまな構成で披露する。

[日程] 2月21日

[会場] 北見市民会館

●岩手県花巻市

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 花巻市東和町土

沢5区135

Tel. 0198-42-4402 平澤広

<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/yorozutetsugoro/1002101.html>

明治／大正／昭和前期のいわて近代美術

明治・大正・昭和前期において、地方や中央で活動していた岩手県にゆかりのある美術家たちの痕跡を拾い集め、地方

美術の歩みを振り返る展覧会。日本近代美術史における西欧彫刻の先駆者・長沼守敬、前衛絵画をけん引した萬鉄五郎、詩情豊かな表現で魅了する松本竣介といった、数々の個性溢れる美術家たちの絵画やデッサンなどの作品を100点以上展示する。

[日程] 2020年12月5日～2月28日

[会場] 萬鉄五郎記念美術館



五味清吉《秋草》(1915(大正4)年)／萬鉄五郎記念美術館蔵

●山形県米沢市

米沢上杉文化振興財団

〒992-0052 米沢市丸の内1-2-1

Tel. 0238-26-2666 安部理絵

<https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/>

LIVE@HALL de JAZZ ～Ribeira's Yell Band～

毎年、館内のカフェで開催されていたコンサート「Jazz Cafe Live」を今年はホールで開催。東北で活躍するアーティスト Kisachi (Vo)、横澤徹 (A.Sax)、那須尚平 (Gt)、青木大志 (Ba)、渡辺綾子 (Pf)、岸川雅裕 (Dr) により、今回のコンサートのために特別に結成された Ribeira's Yell Band が『I Got Rhythm』『ルパン三世のテーマ』『Nica's Dream』などを披露する。ジャズ初心者のためのミニ講座「自由なジャズの決まり事!?!」も開催。

[日程] 2月28日

[会場] 伝国の杜置賜文化ホール

関東

●茨城県取手市

取手市文化事業団

〒302-0005 取手市東1-1-5

Tel. 0297-73-3251 蛇原利久

<http://733251.o.oo7.jp/>

取手ジャズフェスティバル

取手市制施行50周年事業として開催するジャズフェスティバル。1日目に宮本貴奈トリオ、大坂昌彦ハードコア・ジャズカルテットが、2日目にスガダイロトリオ、井上陽介トリオが出演予定。また、2月28日には東京藝大のジャズバンドなどが出演するプレ公演が開催される。それぞれライブ配信も予定。

[日程] 3月17日、18日

[会場] 取手市民会館

●群馬県前橋市

アーツ前橋

〒371-0022 前橋市千代田町

5-1-16

Tel. 027-230-1144 小屋綾子

<http://www.artsmaebashi.jp/>

聴くー共鳴する世界

聴く行為を通して世界と関わる実践を芸術作品によって紹介する展覧会。参加アーティストたちは、インタビューやフィールド・レコーディングなどの手法を通して、都市の騒音や人々の過去の記憶から音や声を記録し、個人や社会を構成する多くの事柄が“聴く”ことで初めて認識されるという特徴を鑑賞者に伝える。関連イベントでは、出展作家による映像作品の上映プログラムも開催。

[日程] 2020年12月12日～3月21日

[会場] アーツ前橋

●埼玉県越谷市

越谷市施設管理公社

〒343-0845 越谷市南越谷1-

2876-1

Tel. 048-985-1111 濱野俊一郎

<http://www.suncityhall.jp>

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

(地域の)アーティストとホールの共同企画Vol.32 ピアノ、リュート、朗読で紡ぐ 『銀河鉄道の夜』

越谷市にゆかりのアーティスト、ホールで共に考えつくり上げるコンサート。フリーアナウンサーの向坂真弓が『銀河鉄道の夜』の名場面を朗読し、佐藤展子(ピアノ)、櫻田亨(リュート)がショパン『華麗なる円舞曲』第2番、宮沢賢治『星めぐりの歌』、ドビュッシー『アラベスク』第1番、田内栄『Teardrops』などを披露する。コロナ感染対策として、観覧受け付けは往復はがきでの申し込み。

[日程] 2月21日

[会場] 越谷市北部市民会館

●千葉県市川市

市川市文化振興財団
〒272-0121 市川市末広1-1-48
Tel. 047-701-3011 藤川寿延
<https://www.tekona.net/gyotoku/>

午後のクラシック いまこそ シューベルト〜希望の春へ〜

市川市文化振興財団と市川市市民文化サポーターによる共同企画のコンサート。市川市文化振興財団新人演奏家コンクール受賞者の平塚七衣(フルート)、市川友佳子(ヴィオラ)、正住真智子(ピアノ)を招き、シューベルトの「アルペジオネソナタ」「セレナード『冬の旅』より」「しほめる花・即興曲」などを披露する。

[日程] 2月13日

[会場] 行徳文化ホールI & I

●東京都文京区

文京アカデミー
〒112-0003 文京区春日1-16-21
Tel. 03-5803-1103 中根文
<https://www.b-academy.jp/>

荘村清志×武満 徹 〜武満 徹生誕90年記念〜

文京区ゆかりの作曲家・武満徹(1930〜96)と深い親交のあつ

たギタリスト・荘村清志による、武満の生誕90年を記念したコンサート。荘村が武満に委嘱して初演した『フォリオス』のほか、ポップスや唱歌の名曲をアレンジした『ギターのための12の歌』など数々の武満によるギターのための作品を、当時のエピソードを交えながらお届けする。共演に斎藤和志(フルート)と横村福音(ギター)、武満の長女・真樹がトークゲストとして登場。

[日程] 2月26日

[会場] 文京シビックホール

●東京都世田谷区

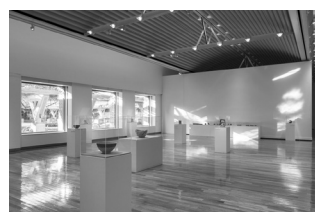
世田谷美術館
〒157-0075 世田谷区砧公園1-2
Tel. 03-3415-6011 塚田美紀
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

世田谷美術館コレクション選 器と絵筆 魯山人、ルソー、ボ ーシャンほか

美術館のコレクションの柱をなす北大路魯山人の器と、アンリ・ルソーやアンドレ・ボーシャンなど「素朴派」といわれる作家の作品を紹介する企画展。魯山人の陶磁器など約50件、世界各国の素朴派絵画から約50点を精選。美術館が立地する砧公園を借景する大きな窓から自然を楽しみながら、日々創造的に生きることに思いを巡らせる機会となる。また、視覚障がい者の美術鑑賞に関する活動の一環で制作した「触図」も初めて展示される。

[日程] 1月5日〜2月28日

[会場] 世田谷美術館



大きな窓からの砧公園の眺めが楽しめる
世田谷美術館の展示室 撮影:上野則宏

●東京都多摩市

多摩市文化振興財団
〒206-0034 多摩市鶴牧1-24-1
新都市センタービル501号室
Tel. 042-375-1414 吉田舞雪
<https://www.parthenon.or.jp/>

市民参加演劇公演 音楽劇 『わが町、たま』〜月の光〜

50年前に開発された日本最大規模のニュータウン・多摩ニュータウンを舞台とした市民参加の演劇公演。公募で集まった市民22人が5カ月間の稽古を経て舞台に臨む。別途開催している「舞台スタッフ講座」受講生も本公演スタッフとして参加するなど、市民と芸術家が協働で舞台づくりに取り組む。

[日程] 2月21日

[会場] 関戸公民館

●横浜市

横浜美術館
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel. 045-221-0300 松永真太郎
<https://yokohama.art.museum/>

トリアローグ: 横浜美術館・ 愛知県美術館・富山県美術館 20世紀西洋美術コレクション

横浜美術館、愛知県美術館、富山県美術館の3館が共同し、それぞれのコレクションを組み合わせ、20世紀西洋美術の歴史を振り返る企画展。ピカソやクレイ、ミロ、エルンスト、ダリ、マグリット、ポロック、ベーコン、ウォーホル、リヒターなど、20世紀美術史を彩った巨匠たちの作品を厳選し、絵画を中心に約120点の作品を紹介。特定の作家をフォーカスして3館の所蔵作品を比較するコーナーなど、連携・共同企画ならではの展示も行う。なお、横浜美術館は本展を最後に大規模改修工事による長期休館に入る。

[日程] 2020年11月14日〜2月28日

[会場] 横浜美術館

●相模原市

相模原市民文化財団
〒252-0105 相模原市緑区久保沢2-26-2
Tel. 042-783-5295 佐川真美
<http://hall-net.or.jp/06momiji/>

相模原音楽家連盟×もみじホー ル城山 ピアノって美しい!!〜ベ ビシユタインとたどる名曲たち〜

ピアノをテーマに相模原音楽家連盟ともみじホール城山の企画によるレクチャーコンサートを開催。もみじホール城山では、スタインウェイ、ベーゼンドルファーに並び世界三大ピアノと呼ばれるベビシユタインを神奈川県下の文化施設で唯一所有している。今回は、このベビシユタインの歴史にもふれながら、瑞々しい音色を存分に楽しめる名曲をお届けする。

[日程] 2月25日

[会場] もみじホール城山

●神奈川県小田原市

おだわら文化事業実行委員会
〒250-8555 小田原市荻窪300
Tel. 0465-33-1709 高橋歩美
https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/culture/event/21shiro-machiart_haretokekousaten.html

おだわら城町アートプロジェクト 「ハレとケ交差点」

小田原市内の歴史的な建造物や商店街などで作品展示やパフォーマンスを行い、新しい発見と出会いの場をつくることを目的としたアートプロジェクト。今回のテーマは「日常(ケ)と非日常(ハレ)」。かつて文化の発信地として賑わいを見せた建物を舞台に、子ども向けワークショップ「おだわら・コドモ・アート」や、市内で活動する劇団、演奏家による朗読劇コンサートなどを開催。

[日程] 2月20日、21日、27日、28日

[会場] オービックビル(栄町共同ビル)

北陸・中部

●富山県高岡市・魚津市

富山県文化振興財団

〒930-0006 富山市新総曲輪4-18

Tel. 076-432-3115 五十里大樹

<https://www.bunka-toyama.jp/>

ぼくとわたしのコンサートデビュー ～とやまの演奏家とつながる笑顔～

0歳から入場可能な子ども向けコンサート。県在住の演奏家16名と、県内外で活躍する劇団Chocolat☆ショコラが出演。作・編曲家で教育プログラムアドバイザーも務める三澤慶監修の下、親子で楽しめるクラシック曲のほか、擬音のリズミカルな言葉で構成された絵本『じゃあじゃあ びりびり』の朗読をオーケストラの生演奏とともにお届けする。

[日程・会場] 1月30日：富山県高岡文化ホール、1月31日：新川文化ホール

●長野県松本市

松本市芸術文化振興財団

〒390-0815 松本市深志3-10-1

Tel. 0263-33-3800 飯野千恵子

<https://www.mpac.jp/>

冬のカーニバル第二弾！ 真冬のパーレスク ボードビル3部作

観光シーズンの夏ではなく冬にこそ楽しめる演劇作品を、という市民の要望により2019年に誕生した「冬のカーニバル」シリーズ。2回目の開催となる今回のコンセプトは「バラエティー」。串田和美の代表作でもある『もっと泣いてよ、フラッパー』など3つの作品を厳選し、音楽と踊り（音楽：Dr.kyOn、振付：山田うん）と演劇を織り交ぜたオムニバス形式でお届けする。東京芸術劇場シアターウエストでも上演予定（2月26日～3月2日）。

[日程] 2月17日～22日

[会場] 信毎メディアガーデン

●長野県上田市

上田市（上田市交流文化芸術センター）

〒386-0025 上田市天神3-15-15

Tel. 0268-27-2000 依田光太郎

<https://www.santomyuze.com/>

Baobab Re:born project vol.2 『アンバランス』

劇場の2020年度レジデントアーティストとして活動する振付家・ダンサー北尾亘によるコンテンポラリーダンス公演。過去発表した作品と改めて対峙し、生まれ変わらせる「Re:born project」の第2弾として、北尾が大学在学中に発表した作品『アンバランス』を、劇場に滞在しながらリクリエーションする。

[日程] 1月31日

[会場] サントミューゼ（上田市交流文化芸術センター）

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1313 加藤恵

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.9 三宅砂織

アーティストが美術館に滞在して作品制作を行う企画。9回目となる今回は、カメラを使わない写真技術と言われる「フォトグラム」の手法を用いた作品を主に制作している岐阜県出身のアーティスト・三宅砂織を招聘。岐阜県の風土や歴史、文化に改めてふれ、そこで出会ったものを作品制作に落とし込む。関連プログラムでは、三宅が講師を務め、太陽の光で物や図像の影を焼き付けるサイアノタイプ体験を実施。

[日程] 2月13日～3月28日

[会場] 岐阜県美術館

●浜松市

浜松市文化振興財団

〒430-7790 浜松市中区板屋

町111-1

Tel. 053-451-1150 梅田徹

<https://www.hcf.or.jp/>

浜松市アクトシティ音楽院コミュニティコース 主催者育成セミナー 第20期受講生企画コンサート「Kitri～あなたを巻き込む不思議な世界～」

一般公募の市民がコンサートの主催に必要な知識を学び、実際にコンサートを企画・運営する浜松市アクトシティ音楽院の主催者育成セミナー。第20期受講生が企画するコンサートには、京都出身のピアノ連弾ボーカルユニットKitri（キトリ）を招き、姉のMona（モナ）と妹のHina（ヒナ）による、幻想的な音世界をお贈りする。

[日程] 2月20日

[会場] アクトシティ浜松 研修交流センター

●静岡県菊川市

菊川文化会館アエル

〒439-0018 菊川市本所2488-2

Tel. 0537-35-1515 丸尾正

<http://kikugawa-ael.jp/>

県民参加演劇公演

『静岡茶●航海記』

菊川を拠点に静岡にまつわる歴史や伝説等をテーマに舞台芸術を創作する劇団静岡県史と菊川文化会館アエルが共同で企画する演劇公演第2弾。茶畑を開墾した幕末の志士を取り上げた前作に続き、今回は明治から昭和までの静岡茶産業の歴史劇を、公募で集まった出演者やスタッフと共に上演する。歴史や作品への理解を深める機会



前作『牧之原開拓史～侍たちの茶摘み～』フィナーレの様子（2019年4月）

として、勉強会や作品の題材となった赤レンガ倉庫などを回るツアーを実施。

[日程] 2月28日

[会場] 菊川文化会館アエル

●名古屋市

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5609 唐津絵理

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>

勅使川原三郎 芸術監督就任記念シリーズ 新作公演『ペレアスとメリザンド デュエット版』

今年度愛知県芸術劇場芸術監督に就任した勅使川原三郎のダンス公演第3弾。これまで同劇場で『NOIJECT』（1993年）、あいちトリエンナーレ2016プロデュースオペラ『魔笛』などを発表してきた勅使川原が、芸術監督として初の創作を行う。ドビュッシー作曲のオペラ『ペレアスとメリザンド』を基調にしたダンスを佐東利穂子と上演。

[日程] 2月21日～23日

[会場] 愛知県芸術劇場

●愛知県刈谷市

刈谷市総合文化センター

〒448-0858 刈谷市若松町2-104

Tel. 0566-21-7430 大島寛之

<https://kariya.hall-info.jp/>

文化工房かりや第7回企画公演 万葉ろまん～「青海郡 依佐美野ものがたり」

刈谷の新たな魅力を発信することを目的として、刈谷市総合文化センター指定管理者・刈谷市と共に企画・制作する市民グループ「文化工房かりや」が手がける市民参加型公演。7回目の今回は、歌人・柿本人麻呂と万葉の刈谷の人々をめぐる物語を描くオリジナル音楽劇。美しいメロディや心に響く歌声で万葉の時代を生き生きと描き出

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

す。刈谷市制70周年記念事業。
[日程] 2月27日、28日
[会場] 刈谷市総合文化センター

●愛知県東海市

東海市芸術劇場
〒477-0031 東海市大田町下
浜田137
Tel. 0562-38-7030 黒田恵美子
<https://www.tokai-arts.jp/>

アーティスト・イン・レジデンス 2020「今村聡子 ヴィオラ リサ イタル」

さまざまなジャンルで活躍して
いる芸術家が劇場専属芸術家
として、1年を通して劇場内で
作品創作やワークショップを開
催して作品を公開することによ
り、作品をつくる喜びや楽しみ
を参加者に体感してもらう事
業。今年度の専属芸術家で、名
古屋フィルハーモニー交響楽団
の次席ヴィオラ奏者でもある今
村聡子が活動の集大成としてリ
サイタルを開催する。プログラ
ムはシューマン『おとぎの絵本』
Op.113、ブラームス『ヴィオラソ
ナタへ短調』Op.120-1、ショス
タコーヴィチ『ヴィオラソナタ』
Op.147を予定。
[日程] 2月11日
[会場] 東海市芸術劇場

近畿

●京都市

京都府立堂本印象美術館
〒603-8355 京都市北区平野
上柳町26-3
Tel. 075-463-0007 森麻紀子
<https://insho-domoto.com/index-j.html>

憧れのヨーロッパ旅行

A DREAM TRIP TO EUROPE

日本画家・堂本印象は1952(昭
和27)年、すでに画壇の重鎮と
して活躍していたものの、新し
い日本画のあるべき姿を模索
し、半年間にわたりヨーロッパを
歴訪。古典芸術のみならず、同
時代美術の動向にも直にふれ、

今後進むべき道を確認して帰国
した。本展では、帰国直後に発
表した《メトロ》のほか、ヨーロ
ッパ旅行に基づく作品やスケッチ
画、エッセイ、工芸作品なども併
せて展示することで、旅の成果
を振り返る。

[日程] 2020年11月28日～3月28日
[会場] 京都府立堂本印象美術館

●神戸市

兵庫県立美術館
〒651-0073 神戸市中央区協
浜海岸通1-1-1
Tel. 078-262-0901 鈴木慈子
<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

特別展

「開館50周年 今こそGUTAI 景美の具体コレクション」

1954年から72年まで活動した
兵庫県発祥の前衛美術グループ
「具体美術協会」(略称「具体」)
の作品を取り上げる。1970年
の開館以来、「郷土ゆかりの美
術」として収集されていた具体
の作品は、年を重ねるごとに増
えていき、現在は所蔵する現代
美術作品の柱となった。50年間
の収集を時系列に振り返りなが
ら、ひとつのイメージに収斂しな
い多角的な「具体」像に迫る。
[日程] 2020年12月5日～2月7日
[会場] 兵庫県立美術館

●兵庫県伊丹市

いたみ文化・スポーツ財団
〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1
Tel. 072-782-2000 香井垂希子
<http://www.aihall.com/>

「みんなの劇場」こどもプログラム 『かむじゅうのぼうけん～うみの しゃぼんだま～』

平成20(2008)年度より始まった
幼児・児童向け自主企画「みん
なの劇場」こどもプログラム。今
回で3回目となる『かむじゅうの
ぼうけん』は、物語の主人公と
一緒に、「みる・つくる・おどる」
を体験する参加型公演。保護者

同伴の上、未就学児も参加でき
る。また、感染症対策のため兵
庫県新型コロナ追跡システムの
利用を推奨している。
[日程] 2月13日、14日
[会場] AI・HALL(伊丹市立演
劇ホール)

中国・四国

●岡山市

岡山文化芸術創造
〒700-0822 岡山市北区表町
1-5-1
Tel. 086-234-2001 岡村晃平
<http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/>

～世界に向けて～岡山の情景 を音楽で語る旅

岡山出身の情景描写ピアニスト
の山地真美と岡山フィルハーモ
ニック管弦楽団を迎え、音楽と
映像、語りによって岡山の魅力
を国内外へ発信するコンサート。
第1部は岡山城と日本三名園の
後楽園の映像と情景から作曲し
た音楽で巡るコンサート、第2部
は「桃太郎伝説の生まれたまち
おかやま」をテーマに創作した
音楽と英語での語りを上演。こ
れまで継承されてきた文化や歴
史的景観を体験できる貴重な
機会となる。
[日程] 2月4日
[会場] 岡山シンフォニーホール

●山口県山口市

山口県立美術館
〒753-0089 山口市亀山町3-1
Tel. 083-925-7788 福田善子
<https://www.yma-web.jp/>

雪舟600年 vol.2

雪舟流を受け継いだ雲谷派の
作品を展示。会期を前期・後期
に分け、前期は花鳥を、後期は
山水をそれぞれテーマとし、17
世紀の雲谷派の画家を取り上げ
る。新型コロナウイルス感染症
対策として、パーソナル・ギャ
ラリー・ガイドを実施。作品の前で

QRコードを読み取ると学芸員
が雲谷派の魅力を解説する動
画を視聴することができる。
[日程] 1月9日～3月28日
[会場] 山口県立美術館



雲谷等益《芦鶴図屏風(右隻)》
1641(寛永18)年/紙本金地着色/個人蔵
(山口県立美術館寄託)

●香川県高松市

高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711 牧野裕二
<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/index.html>

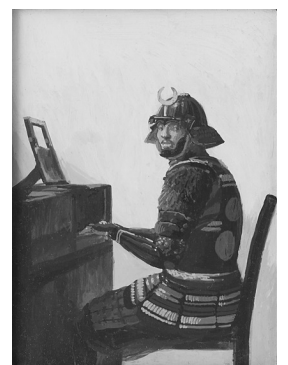
野口哲哉展

— THIS IS NOT A SAMURAI

鎧と人間をテーマに、現代性や
人間性を問ひかけ、多様な文化
や感情が混ざり合うユニークな
世界観が国内外の幅広い層に
支持されている香川県出身の現
代美術作家・野口哲哉の展覧
会。鎧をまとう人々の彫刻や絵
画など、初期から新作まで代表
作の約180点を展示。関連イベ
ントとして、野口のトーク・ディス
カッションイベントや講演会「野
口哲哉、自作を語る」なども予定
している。

[日程] 2月6日～3月21日

[会場] 高松市美術館



野口哲哉《17C ～音楽の寓意～ フェルメ
ールに基づく》(2017年)

地域通信

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
〒763-0022 丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 松村 円
<https://www.mimoca.org/ja/>

猪熊弦一郎展 色に注目！一赤・黄・青から見てみると？

色彩豊かな猪熊弦一郎の作品について、赤・黄・青の3色に着目した展覧会。単色から3色のうち2色、3色すべて、さらに赤・黄・青以外の色も加わった作品へと展開していくように展示することで、色のもつ奥深さや、複数の色が響き合う美しさがどのように生み出されているのかを探る。

[日程] 1月23日～3月7日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡市美術館
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

Tel. 092-714-6054 忠あゆみ
<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

ソシエテ・イルフは前進する 福岡の前衛写真と絵画

戦前の福岡で、写真家や画家、工芸家ら7名の主要メンバーにより結成された前衛美術グループ「ソシエテ・イルフ」の約30年ぶりとなる回顧展。福岡の前衛美術の系譜の中にあつて特異な存在感を放つ彼らの活動に焦点を当て、写真作品や絵画のほか、作家旧蔵のアルバムや1冊のみ現存する同人誌『irf1』、メンバーが作品を投稿していたカメラ雑誌などの関連資料を含む約100点が展示される。

[日程] 1月5日～3月21日

[会場] 福岡市美術館

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11

Tel. 093-562-2655 吉松寛子
<http://q-geki.jp/>

Re:北九州の記憶～番外編～

北九州の街に暮らしてきた高齢者の方々に、さまざまな思い出や記憶を地元の若手作家たちがインタビューし、物語をつくる事業。9年目を迎える今年は番外編として、劇作家たちがこれまでの経験を元に北九州にフォーカスを当て、土地や人々の記憶をテーマに書き下ろした6つの戯曲を、内藤裕敬の演出によりオムニバス形式で上演。いつもとはひと味違う内容となっている。

[日程] 2月20日、21日

[会場] 北九州芸術劇場



令和元年度「Re:北九州の記憶」©藤本彦

●福岡県大牟田市

福岡県立美術館
〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1

Tel. 092-715-3551 岡部 理
<https://fukuoka-kenbi.jp/>

移動美術館展

福岡県立美術館が長年収集してきたコレクションを県内の文化施設等で公開する事業。今回はコロナ禍で開催する展覧会として、「立ち止まりながらも、続いたことは、力」をテーマに、大牟田市にゆかりのある作家を中心に約40点を展示する。会場では大牟田市出身のアーティスト・江上計太によるインスタレーションも展示。心穏やかに美術鑑賞を楽しむことができる。

[日程] 1月20日～2月11日

[会場] 大牟田文化会館

●大分県大分市

大分市文化振興課

〒870-8504 大分市荷揚町2-31
Tel. 097-537-5663 中畑・須浦
http://www.city.oita.oita.jp/o016/hurusato_ticket14.html

第14回大分市ふるさとコンサート

街に音楽があふれ、道行く人が心とむような「音楽のまち大分」を実現することを目的とした「おおいた夢色音楽プロジェクト」のひとつ。大分市にゆかりのある宮崎大介・宮崎陽子 兄妹(ピアノデュオ)、宮尾安紀子(オーボエ)、石本高雅(テノール)、河村佳奈(ヴァイオリン)といった新進気鋭の演奏家たちによる素晴らしいクラシック音楽を楽しめる。

[日程] 2月14日

[会場] コンパルホール



第12回大分市ふるさとコンサート(2019年)

●宮崎県宮崎市

宮崎県立芸術劇場
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 高吉加奈美
<http://www.miyazaki-ac.jp/>

Miyazakiアウトリーチアーティスト・エキシビション#5

コンサートへ行く機会や音楽にふれる機会の少ない方々に、音楽を届けることを目的とした訪問演奏活動「アウトリーチ事業『ミュージック・シェアリング』」。その第5期登録アーティストとして2年間活動した田島千愛(ソプラノ)、野崎さやか(ピアノ)によるガラ・コンサート。ベートーヴェンのピアノソナタ第14番『月光』のほか、実際のアウトリーチで実施しているプログラムも披露する。

[日程] 2月6日

[会場] メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

●オンラインを活用した新たな事業、プロジェクトについて、今後積極的に掲載する予定です。ぜひ情報をお寄せください。

◎情報提供先
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●山梨県市川三郷町

市川三郷町生涯学習センター (ifセンター)

〒409-3601 市川三郷町市川大門1437-1

Tel. 055-272-3811

<http://www.town.ichikawamisato.yamanashi.jp/20life/syougai/>

◎2020年1月25日オープン



町民会館と体育館の老朽化に加え、合併前から活用される図書館の開架・書庫スペース不足、多様化するニーズへの対応等の問題を受け、1万3,000m²を超える広大な敷地に、3つの機能から成る複合施設を整備。図書館は旧施設の約4.3倍の広さを確保した。

2階の生涯学習館には、講演会や発表会、展示会などあらゆる用途に対応した多目的ホール、町内で盛んな合唱に使用できる音楽室、華道や茶道に使用できる和室等が配置され、ラウンジには昭和初期に山梨出身の実業家・根津嘉一郎から寄贈された「根津ピアノ」が展示されており、ミニコンサートなどイベントも実施可能。また、館内の手すりや各部屋のサインボードには地元産の和紙が使用されている。今後は、生涯学習・スポーツ・情報の拠点として、3つの機能を横断した運営を目指す。

[オープニング事業] 小澤俊夫先生講演会～昔話のたのしみ～、いけばな小原流 花の輪・人の輪ーみんなの花展 ほか

[施設概要] 多目的ホール(507m²)、図書館、アリーナ(1,300m²)ほか
[設置・管理・運営者] 市川三郷町
[設計者] 総合建築設計事務所

●奈良県平群町

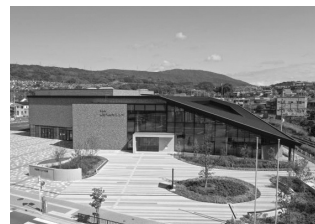
平群町総合文化センター

〒636-0932 生駒郡平群町吉新3-1-34

Tel. 0745-45-2505

<http://www.town.heguri.nara.jp/web/profile/chosei/iinkai/kyouiku/kyouiku08.html>

◎2020年4月11日オープン



老朽化により大規模改修が必要な町内施設の再整備を行い、中央公民館、人権交流センター、町立図書館の機能を集約した複合施設としてオープン。計画段階からワークショップ等で住民の声も反映され、社会教育施設として高齢者から子どもまで幅広い世代が集い・交流するコミュニティ活動の拠点として、また地域の知的支援の拠点として整備された。

1階には県産の吉野杉でつくられた本棚が自慢の図書館や、370人収容可能な「くまがしホール」などがあり、2階には矢田丘陵などの眺望を楽しめるテラス、研修室や会議室など、町民のさまざまな地域活動の拠点として利用が可能。

各施設の機能が相互に連携し相乗的に効果を発揮するため、「文化交流拠点」「情報発信」「にぎわい創出」の3つをコンセプトとして展開していく。

[施設概要] くまがしホール(370席)、中会議室(3室)、小会議室、研修室(4室)、和室、図書館(630m²)、人権交流センター(24m²)、どんぐり広場(1,120m²)

[設置・管理・運営者] 平群町
[設計者] 株式会社安井建築設計事務所

●愛媛県伊予市

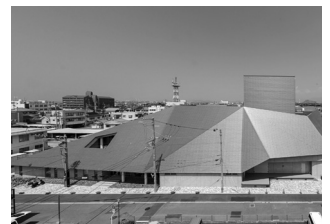
IYO夢みらい館 (伊予市文化交流センター)

〒799-3113 伊予市米湊768-2

Tel. 089-909-3266

<https://www.city.iyo.lg.jp/shakaikyoku/shisetsu/bunka/iyouyumemiraikan/>

◎2019年8月1日オープン



伊予市は市民一人ひとりが自発的に参画し、協働による豊かなまちづくりを目指している。特に子どもたちには、芸術文化・生涯学習の発展に資するため幼い頃から参画する機会を与えたいといった考えから、新たに文化ホール・地域交流館・図書館が「縁側モール」と呼ばれる空間で繋がった複合型文化施設を建設した。

文化ホールはコンサートや講演、演劇などに対応できる設備を備え、スタインウェイ社のグランドピアノを保有。地域交流館には会議室や音楽活動が楽しめるスタジオ、スポーツにも使える多目的室などがあり、クリエイティブな活動に利用できる。図書館は、従来の静かな図書館のイメージとは異なる、明るく開放的な空間となっており、「子ども図書エリア」や、より静かに読書を楽しめるスペースなどが効果的に配置されている。

今後も市民の文化芸術活動や生涯学習の推進を図り、地域の文化創造の拠点を目指す。

[施設概要] ホール(380席、車椅子枠2席)、図書館、会議室4室、スタジオ3室ほか

[設置・管理・運営者] 伊予市
[設計者] (株)山下設計

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

長野県上田市

サントミュージゼ(上田市交 流文化芸術センター) コロナ禍における 市民参加演劇



高校生と創る『実験的演劇工房』7th ～Be with you～ 写真提供: サントミュージゼ

- 市民参加公演『ワレワレのモロモロ 上田編』
[構成・演出・監修・指導] 岩井秀人
●2020年2月中旬～3月末 参加者募集
(応募者数37名)
●4月3日 書類で27名選考
●4月10日～6月30日 サントミュージゼ全館臨時休館。それに伴いオーディション(4月)、稽古(5月、6月に計6日間)を中止し、本番(7月12日)を見直し
●5月26日 岩井とのZoomミーティングで映像作品、YouTube配信決定
●6月 応募者に企画変更説明。Zoomによるオーディションで20名選考。9名が台本を担当。岩井がリモートで指導
●7月4日～12日 サントミュージゼ全館で稽古および収録
●8月15日 上田ケーブルビジョン(UCV)でメイキング放映
●9月3日～ 順次YouTube公開

- 高校生と創る『実験的演劇工房』7th ～Be with you～
[作・演出・監修・指導] 岩崎正裕
[アシスタント] 橋本匡市
[出演] 上田市内高校演劇部(上田高校、上田染谷丘高校、上田東高校、丸子修学館高校)
[ワークショップ] 2020年12月5日～11日(通常は2週間を短縮)
[発表会] 12月13日(2回公演)
※関係者のみに公開。UCVで後日配信。

* 一般公募プログラム(一般公募した市民を対象に、初年度にアーティストと市民の共同創作、次年度にそのアーティストの公演を実施)と、「高校生と創る『実験的演劇工房』(市内の全高校演劇部(班)が参加し、初年度にアーティストとのワークショップ、次年度に本格的舞台創作を実施)の2つ。

新型コロナウイルス感染症は、公立ホールが企画している市民参加事業にも大きな影響を与えている。2014年に開館したサントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)は、「1%のコアなファン層だけでなく、残り99%の市民と関係をつくる」を合言葉に、アーティストと地域の継続的な関係を育むレジデント・アーティストによる「芸術家ふれあい事業」を展開してきた。演劇では同じアーティストが2年連続で取り組む2つのプログラム(*)を実施。今年度は7月に岩井秀人が公募市民と創作する『ワレワレのモロモロ 上田編』、12月に岩崎正裕が「高校生と創る『実験的演劇工房』」を予定していた。しかし、いずれも予定どおりの開催は叶わず、前者は映像作品に企画を変更し、後者はワークショップの期間を短縮、発表会は関係者のみへの公開となった。

●
演劇を担当する横尾慎二さんは次のように振り返る。

「両方とも公演が目的ではなく、演劇の魅力を身体で体験し、創作過程を知ってもらう“育成”として取り組んでいる。“育成”はコロナ禍だからと言って止めるようなことではない。芸術家ふれあい事業でアーティストと参加者を繋げることをやってきて、両方が旗を降ろさないとやっているのに劇場が降ろすことはできない。市民参加事業は制作プロセスから成果が生まれるもので、そのプロセスは劇場が判断できるのだから、そこを大切に、できることを考えようと思った。市に現場の臨機応変な対応を任せてもらったのも大きかった」

『ワレワレのモロモロ』は、参加者が自分の身に起こったことを元に台本を作成・上演する岩井のプロジェクトの上田編。4月に応募者の書類選考を終えたところで中断を余儀なくされた。

「『無観客にするぐらいなら映像作品として取り組みたい』と岩井さんに言われた。初めてのことでゼロから仕切り直す必要があった。応募者に連絡すると、『演劇に関わりたいのにコロナにその機会を奪われた。岩井さんと話せるだけでもいい』と。その言葉を聞いて、みんなでつくっていくイメージがもてた」(横尾)

7月3日～12日、サントミュージゼ全館で参加者が台本作成、ロケハン、自撮り、監督した9作品の映像撮影が行われた。YouTubeで作品が公開されているが、作者自らが人生の語り手として登場。視点が切り替わる独特のカメラワークで、病院で同室になったオモシロくて逞しい患者たちとのエピソードを描くなど、岩井が「身の上話がオモシロ体験に変わり、観た人が新しい視点をもつ」という参加型演劇の本領を存分に伝える映像に仕上がっていた。

12月13日、もうひとつのプログラムである実験的演劇工房(初年度)の発表会「～Be with you～」取材した。そもそもこの事業は、開館時に取り組んだ高校生の参加型演劇をきっかけに立ち上がったものだ。演劇部の交流を図り、高校演劇の枠組みではない演劇があることを知ってもらう目的で外部演出家を招聘してきた。「10月に高校に連絡したところ、行事がなくなっているの『ぜひやってほしい』と。それが決め手になった」と横尾さん。

8日間の即興でつくったパフォーマンスは、マスクを付けた高校生19人が独り言を口にしながら歩くところから始まる。岩崎から出されたさまざまな“お題”をグループごとに考えてつくった寸劇などが一見脈絡なく展開する。「ありがた迷惑」がお題のシーンでは、マスクを押し付けて歩く「マスクありますオバさん」、病院に押しかけて医療従事者に自粛を迫る「自粛させマン」も登場。不条理な社会を映す鏡のようだった。

岩崎は、「コロナに対する警戒度合いがどんな感じなのか、上田に來ないと空気がわからないので予め準備はしなかった。友達に触れたければ触れている空気だったので、その日常の感じでいいと思った。マスクを付けるのが日常だから、それに準じたマスク着用による『with コロナ演劇』をテーマにした。マスクで表情を封じられても演劇は成立するか——。逆境にあるときほど演劇は強いと信じて臨んだ」と言う。

ラスト、一人ひとりマスクを外し、自分の名前を名乗る…外した瞬間のなぜか晴れやかな笑顔を見て、表情を封じられても演劇は成立していたんだと実感した。(坪池栄子)